

2026年技術系人材の現状レポート

97%がAIの活用を計画しており、55%がソフトウェア開発における大きな価値を期待しています。



AIはIT分野における技術系人材の採用を拡大し続けており、2025年には純採用率が26%、2026年には31%増加すると予測されています。

AIがすべてのIT関連の仕事を取り込んでいるわけではありません。実際、雇用純減の影響がマイナス(-4%)となっているのは、最大規模の組織のみです。



人材不足は依然として広範囲に及んでおり、AI(47%)、サイバーセキュリティ(40%)、プラットフォームエンジニアリング(34%)であるものの、その傾向は、改善しつつあります。

AIセキュリティにおけるAI運用とのギャップは、それぞれ組織の57%に影響を与えています。



セキュリティ上の懸念(48%)と予算上の制約(47%)が新技術から価値を引き出す上での主な障壁となっています。



既存のスタッフのスキルアップは、AI人材の不足を解消し、組織の知識を維持するための主要な戦略であると、組織の94%が重要だと評価しています。



既存社員のスキルアップ(57%)が、人材不足への主な対応策であり、外部からの採用(49%)を上回っています。



組織は、戦略的な技術分野において、新規採用よりも人材のスキルアップを図る可能性が3.5倍高です。



スキルアップは採用よりも優先されるビジネス環境(7.9倍)、定着率(7.7倍)、チームの結束力(7.3倍)、および総コストの削減(5倍)において、それぞれ優れた効果を発揮します。



人材定着戦略として、技術研修(93%)は報酬(91%)よりも上位にランクされており、技術系人材は成長の機会を重視していることが示唆されています。



76%の採用担当者は、候補者の技術スキルを評価する上で資格が重要だと考えています。

